

1 学校教育目標

- ◆1. 進んで学習しよく考える児童
○課題の情報収集・分析から現状を明らかにして、計画的・継続的に**粘り強く**考えながら課題解決することができる子
- ◆2. 優しい心もち、協力し合う児童
○多様性・違いを受け入れ、異質な他者と協働しチームで**目標達成に向けて取り組む**ことができる子
- ◆3. 明るく健康でたくましい児童
○食や運動の重要性を知り、バランスのとれた食事や自身に合った運動を継続し、**体調と心の状態をコントロール**できる子
- ◆4. 思いを伝え合うことができる児童
○他者の考えや気持ちをしっかり聞き受け入れた上で、自身の考えや気持ちを伝え理解し合うために**コミュニケーション**が取れる子
- ◆5. 地域を知り地域を愛する児童
○社会・世界の動きを常に知ろうとし、自分が学んできた力やよさを生かそうと自ら行動し**社会参画**できる子

神原中学校区小中一貫教育 <総括目標> 夢・希望・志をもち社会を生き抜く力を身につけた児童生徒
目指す児童生徒の姿

- ◇1. 学級・学校づくりへの参画意識を持ち、**粘り強く取り組む**児童生徒・・・自身で踏ん張ろうとする児童
- ◇2. 交流、体験活動等、各種行事に**主体的に取り組む**児童生徒・・・得意なこと、苦手なことにもチャレンジする児童
- ◇3. 夢・希望をもち、**自ら高みを目指す**児童生徒・・・「なりたい自分」を思い描き取り組む児童

～ こんな学校だったらいいな 学校への思いや願い 期待 ～

<教職員にとっての学校>

- 授業づくりにやりがいがある
- なんでも相談できる同僚がいる
- 組織的に協働して取り組める

<児童にとっての学校>

- 安心して楽しい
- なんでも頼れる仲間がいる
- 信頼・相談できる教師がいる
- 生活や社会で役立つことが学べる
- 教師や仲間から認められる

<保護者にとっての学校>

- 安全安心で楽しく過ごせる
- なんでも相談できる教師がいる
- 優しい心を育てる
- 人間関係づくりを学べる
- 学力を身に付けられる

2 学校経営目標

「**仲間がつながり 学びがつながる 楽しく安心できる学校づくり**」

3 重点取組事項

(1) 児童のよさを引き出す 授業改善 と そのよさを発揮させる 学校経営

- **自己肯定感を育む視点**
児童一人一人を認め褒め、活躍できる状況をつくり「自分が価値ある存在である」、「自分に自信がある」と実感できる授業づくりを教師が全ての教科等で実践する。
- **児童の育ちの視点**
発達の段階を踏まえた指導・支援を行い、仲間とかかわりながら一人一人のよさや可能性を伸ばし、課題を改善させ、その姿を見取り価値付ける。
- **学校組織力向上の視点**
校長のリーダーシップの下、全ての教職員が互いのよさや弱さも含めて認め合い、専門性を生かして能力を発揮できる組織体制を構築する。

(2) 常に学校（学級）生活を「小社会」と見たてた学校経営

- 学校という小社会において「安心・安全」を確保する。
- 子どもの実態を踏まえた意図的な学習指導・生徒指導を徹底する。
- しっかり教師が教えること じっくり子どもに考えさせることを明確にする。
- 「何のために学ぶのか」「学んだことがどのようなことにつながるのか」共有する。
例：なぜあいさつをするのか なぜ時間を守った方がいいのか なぜ掃除をするのか
なぜ興味のあることも苦手なことも頑張った方がいいのか
- 共通実践において、全教師の指導のズレがないようにする。

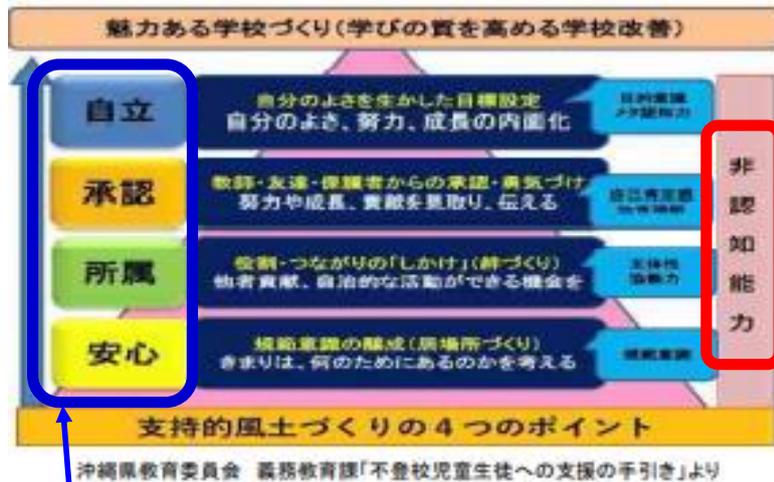
(3) 特別支援教育 と 生徒指導の視点を踏まえた学校経営

- 全職員が児童一人一人の実態を様々な角度から分析し、より丁寧な指導・支援を組織的に取り組む。
- 校長の考えの明確化と職員の主体的な取り組みを促す。
- 「なぜそうするのか」「なぜそうすべきか」職員が学び合う状況をつくる。

4 共通実践事項

- **キャリア教育の要である特別活動の中核となる学級活動の充実**（校内研究）
 - <揃えること> ・学級活動のオリエンテーション ・学級活動(1)(2)(3)の授業・実践づくりの共通理解
 - <揃えるもの> ・学級活動グッズ ・学級活動ファイル ・学級活動資料『楽しい学校生活』
・日直五人制 ・学級活動掲示コーナー ・『板書型学級活動実践イメージ資料』
- 学びを支える規律の徹底・・・あいさつ、「さん」付け呼名、時間を守る、学習用具を揃える（保護者の協力・連携）
- 家庭学習の習慣化・・・三点固定の徹底（①朝起きる時間、②夜寝る時間、③学習する時間）、
自学自習・「けてふれ学習」の推進（保護者の協力・連携）

5 学校経営の基本的な考え方① 支持的風土づくりの4つのポイント 学級経営の充実



「非認知能力」とは？

IQ(知能指数)のような数値で図れる知的な学力ではなく、数値では表せない目には見えない力。「生きる土台となる力」「あと伸びする力」「生涯の学びを支える力」などと言われています。例えば、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない個人の特性による能力のこと全般を指します。

支持的風土づくりの4つのポイント

【ポイント①「安心」】(規範意識を育む)

児童生徒が安心して学校生活を過ごせるために、規範意識を醸成することが必要です。その際、きまりの意義や価値を児童生徒が実感することが大切です。

【ポイント②「所属」】(主体性・協働性を育む)

安心できる集団の中で、他者へ貢献したり、他者と協働して何かをやり遂げる機会、自治的な活動が展開できる環境(組織の整え)を意図的にしかけ、主体性や協働性を育むことが大切です。

【ポイント③「承認」】(自己肯定感・肯定的他者理解を育む)

授業中や様々な活動の場面で、一人一人の努力や成長、貢献を丁寧に見取り、具体的に承認・勇気づけのメッセージを伝えることが大切です。その際、教師から、児童生徒相互、保護者から等、多様な形で承認を得られる工夫が必要です。

【ポイント④「自立」】(目的意識・メタ認知力を育む)

承認を通して気付いた、自分の良さや可能性をもとに、将来の夢や希望、そのための具体的な目標を設定することで目的意識を育むことが大切です。また、日々の授業や学級活動、行事等において「めあて」「振り返り」を行うことで、学校生活が自身の成長につながっていることを実感させることが大切です。

沖縄県教育委員会 義務教育課「不登校児童生徒への支援の手引き」より

児童が**安心**して参加できる授業、安心して学級・学校、**やりがい**がある授業、やりがいがある学級・学校、**認め合える**授業、認め合える学級・学校、自分の目標やクラスの目標に向けてと**ことん頑張る**ことができる授業、学級・学校を常に教師と児童が一緒になって目指します。



6 学校経営の基本的な考え方② キャリア教育の要である特別活動 学級活動の充実

学級活動での学びを切り口に、教科での学びも大切にしていきます。学級活動での学びが、教科の学びにつながり、教科での学びが学級活動の学びにつながります。

学級活動で育成する資質・能力の重要な視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」は教科等の学びや、基礎的汎用的能力といわれる「**ふ**り返る力」「**か**かわる力」「**や**りぬく力」「**み**とおす力」関係しているのかなあ？

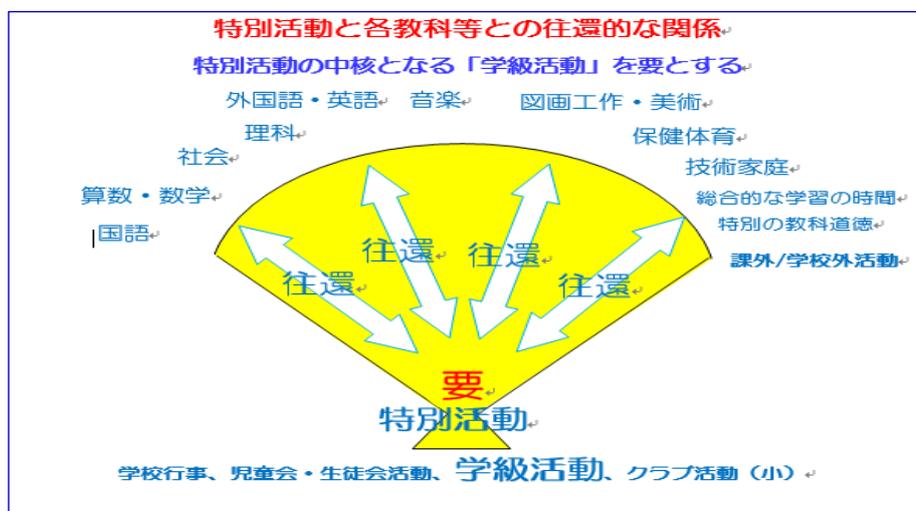


図1 特別活動と各教科等との往還的な関係

【資料1】「平成28年中教審答申第一部P230 特別活動」には次のように述べられている。

実生活の課題を解決するために、互いのよさや可能性を発揮できるような様々な集団活動を通して、各教科等における学びを実際の場面で総合的に活用して実践する時間であるとともに、特別活動の学びが各教科等の学習を行う上での土台となるといった各教科等と往還的な関係にあるとすることができる。